

令和5年度 横須賀美術館運営評価委員会

●横須賀美術館運営評価委員会（令和5年度第1回）

日時：令和5年（2023年）8月16日（水）10時00分～11時00分

場所：横須賀美術館 ワークショップ室

1. 出席者

委員会	委員長	小林 照夫	関東学院大学名誉教授
	委員（委員長職務代理者）		
		菊池 匡文	横須賀商工会議所専務理事
	委員	柏木 智雄	横浜美術館副館長
	委員	三浦 匡	横須賀市立根岸小学校校長
	委員	川口 香世	市民委員
	委員	鈴木 優子	市民委員
館長	文化スポーツ観光部長	倉林 孝英	
事務局	美術館運営課長	岡本 剛彦	
	美術館運営課総務係長	下田 哲央	
	美術館運営課（学芸員主査）	富田 康子	
	美術館運営課（学芸員主査）	工藤 香澄	
	美術館運営課（学芸員主任）	日野原清水	
	美術館運営課（総務係主任）	下田 優美	

2. 議事

令和4年度の運営評価について

3. その他

今後のスケジュールについて

会議録

【開会】

〔事務局・下田哲〕：定刻になりましたので、「令和5年度 第1回横須賀美術館運営評価委員会」を開会いたします。

本日は、お忙しい中、集まりいただき、誠にありがとうございます。私は、委員長に引き継ぐまで司会を担当させていただきます美術館運営課総務係の下田と申します。よろしくお願いたします。

まず、本日は現状いらっしゃる委員6名の方全員にご出席いただいております。

また、本日傍聴者はいませんのでご報告いたします。

それでは、さっそくお手元の次第に沿って、進行させていただきます。

【1 あいさつ】

〔事務局・下田哲〕：最初に、事務局を代表しまして、館長・文化スポーツ観光部長の倉林より、ご挨拶させていただきます。

〔倉林館長〕：横須賀美術館長、文化スポーツ観光部長の倉林でございます。

本日は、ご多忙の中、令和5年度 横須賀美術館 第1回運営評価委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、本日の委員会開催にあたり、委員の皆様には、お忙しい中、令和4年度事業に対する二次評価を行っていただき、重ねてお礼申し上げます。本日の委員会では、委員の皆様からいただきました二次評価について、ご議論いただき、令和4年度の評価を確定させていただきたく存じます。

皆様ご承知のとおり、横須賀美術館は令和4年4月に教育委員会から市長部局に移管されました。これにより、昨年度は、運慶展やスカジャン展といった新たな分野の企画展に挑戦することができました。また、商店街や民間企業の皆様と連携したPR活動、企画を実現することができました。その結果、新型コロナウイルス感染症が5類に移行する前ではありましたが、142,690人という当館歴代3位の観覧者にお越しいただくことができました。

今後も、委員の皆様のご意見の一つ一つを参考にさせていただきながら、一層の努力や工夫を重ねて、多様な学びやにぎわいの創出に寄与するような美術館を目指して、職員一同頑張りたいと思っております。

さらに美術館を発展させ、より多くの皆様にお越しいただくためにも、本日は委員の皆様からは、ぜひ、忌憚のないご意見を頂戴いただければ幸いです。

本日もよろしくお願いたします。

【 新任事務局紹介】

〔事務局・下田哲〕：ここで、4月1日付の人事異動により、新たに着任した事務局の職員

がおりますので、紹介させていただきます。

昨年度、本委員会を担当しておりました安倍は、引き続き美術館運営課にありますが、今年度から広報担当となりました。

後任として、文化スポーツ観光部企画課から着任した下田が本委員会を担当いたしますので、報告させていただきます。

【2 議事 令和4年度の運営評価について】

[事務局・下田哲]：次に、本日の資料の確認をさせていただきます。

まず、机にご用意させていただきましたものは、 次第、資料1「委員名簿」、資料2「委員による二次評価まとめ」、資料3「運営評価委員会スケジュール」、資料4「【修正版】令和4年度 評価報告書(一次評価)」、資料5「【修正箇所一覧】令和4年度 評価報告書(一次評価)」の5つです。

また、委員の皆様には事前にお送りさせて頂いた資料は、「参考資料集」となっています。

併せて、参考資料として、現在開催中の企画展「new born 荒井良二」展にて配布している資料及び次期企画展「ロイヤル・コペンハーゲンと北欧デザインの煌めき」展の招待券及びチラシを置かせていただいておりますので、ご確認ください。

以上が本日の資料でございます。不備等ございませんでしょうか。

それでは、小林委員長、議事の進行をお願いいたします。

[小林委員長]：それでは、次第に沿って、議事を進めます。

議事(1) 令和4年度の運営評価について、事務局から評価の進め方、報告書の体裁等の説明をお願いします。

[事務局・下田哲]：資料2「委員による二次評価まとめ」ですが、皆様からお送りいただきました二次評価の結果を事務局でまとめたものでございます。

この資料をもとに、後ほど、ご議論いただきたいと思います。ご承知のとおり、①から⑧までの目標があり、それぞれに「達成目標」と「実施目標」があり、16の評価項目となっております。

二次評価確定の進め方について、ご提案させていただきます。まず最初に①から⑧の目標ごとに、事務局から一次評価の理由について、簡潔に説明を行います。その後、委員の皆様には、委員会としての二次評価についてご議論いただき、評価を確定していただきます。

また、評価報告書の体裁ですが、コメントは同様のご意見を1つにまとめ、すべて掲載したいと考えます。よろしければ、これまでのとおり、コメントの後ろにかっこ書きで記名させていただきたいと考えております。以上でございます。

[小林委員長]：それでは、進め方、評価報告書の体裁についてですが、いかがでしょうか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：それでは、まず、事務局から一次評価の内容とその理由について、①から順に、説明をお願いします。

[事務局・下田哲]：資料1「運営評価報告書（二次評価のまとめ）」及び「評価報告書（一次評価）」に基づき、目標ごとにご説明申し上げます。

それでは、運営評価報告書の2ページをご覧ください。

私からは、「I 美術を通じた交流を促進する」のうち、「①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」の事業計画及び目標について、ご説明させていただきます。

こちらの一次評価は「達成目標」をA、「実施目標」をSとさせていただきます。

まず、達成目標についてです。評価「A」としましたが、2ページ下部の〔一次評価の理由〕に記載の通り、年間観覧者数 120,000 人という目標設定に対し実績は、142,690 人となり、達成率 118.9%と目標を上回ったことから、「A」評価としました。

142,690 人という数字は、開館した平成 19 年度の 165,961 人、令和元年度 151,431 人に次ぐ3番目に多い人数となりました。

3ページをご覧ください。一番上の表に記載がある通り、年間の見込みを大きく上回ったのは、主に運慶展が 40,000 人予測のところ 50,012 人、スカジャン展が 8,000 人予測のところ 16,692 人、土方重巳展が 9,000 人予測のところ 14,048 人の3つの企画展で見込みを大きく上回る観覧者にお越しいただくことができました。

次に、実施目標についてです。

3ページの一番下をご覧ください。評価「S」とした理由として、本市にもゆかりのある大河ドラマ「鎌倉殿の13人」にあわせ、観光部局と連携し運慶展に関連した能楽公演をはじめ、各種イベントを開催したこと、京急バスやドブ板通り商店街など民間事業者と連携したスカジャン展スペシャルチケットの販売したこと、開館前の朝の時間を楽しんでいただくコンサートの開催などを積極的に行ったことテレビドラマやCM撮影など、影響力の大きな商業撮影を受け入れたことなどがあげられます。これらは、令和4年度から市長部局に移管されたことにより、市役所内他の部局とスムーズに連携ができたことにより実現しました。

以上の通り、昨年度は、新型コロナウイルス感染症5類以降前ではありましたが、大変多くのお客様にご来館いただくことができました。今後もより多くのお客様にご来館いただけるよう、展示内容はもちろん、プロモーション活動や団体集客にも力を入れていきたいと考えています。

①の説明は以上です。

[事務局・日野原]：9ページをご覧ください。「② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる」の一次評価についてご説明申し上げます。

この項目の達成目標は「市民ボランティア協働事業に対する、登録者・一般参加者を総合した参加者数 延べ1,700人」です。令和4年度は、小学校美術鑑賞会ボランティアとみんなのアトリエボランティアの活動を年度途中から再開し、プロジェクトボランティアについては年3回のイベントを開催しました。しかし、コロナ以前と同等の完全な形で活動を再開できなかったことから評価不能ということで、一次評価を「F」といたしました。

続いて、10ページをご覧ください。こちらの項目の実施目標は、「・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。」の二つです。美術館とボランティアの間の活動は再開していますが、ボランティアと市民との間の活動が完全な形で再開できなかったということで、一次評価を「F」といたしました。

②については以上です。

[事務局・工藤]：12ページをお開きください。次に、「③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす」についてです。

こちらの一次評価は、「達成目標」はA、「実施目標」もA、といたしました。

まず、達成目標については、来館者アンケートの結果「企画展満足度 80.0%」をかかげ、目標を超える高い満足度をいただきました。

各項目についての総合での満足度を見ていくと、企画展では「作品」「心的充足」が80台後半から90%以上の数値を出しています。一方「解説・順路」については70台から80台と数値のばらつきがみられますので、個々の展覧会それぞれで理由を分析しております。

とりわけ70%台だった展覧会についてご説明します。

「フランス・モダン・ポスター展」はタイトルの説明を説明したキャプションのほかに、一つ一つのポスターに何が書かれているかの説明パネル、作家パネルもつけていました。ですので、ポスターそのものの説明より、ポスターが作られた時代や街の背景の説明がもっと欲しいという意見と推察しています。「運慶展」は、市内の仏像が一堂に会する展覧会が横須賀市の社会教育施設として初の試みだったことから、初めて仏像を鑑賞する人にもわかりやすい内容と、年齢にかかわらず読みやすい形式での解説を心がけましたが、不十分であったかもしれません。「スカジャン展」は、通路幅の狭さ、動線のわかりにくさが原因かと考えられます。

令和4年度はコロナの休館はなく年間を通じて展覧会を開催することができました。企画展の満足度は総合的に概して高かったため、達成目標をAとしました。

続いて実施目標についてご説明いたします。

令和4年度は、開館15周年であり、また文化スポーツ観光部に移管した年でもあり、新たな視点での展覧会や、他課との連携を積極的に行いました。教育普及事業では動画制作・配信や対面での事業を時に併用しながら開催してきました。コロナ感染対策を講じながら、図書室運営も行ってまいりました。これらを総合的にみてA評価といたしました。

[事務局・富田]: ついで、18 ページ「④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する」の一次評価について申し上げます。この項目の一次評価は、達成目標をC、実施目標をAといたしました。

まず、達成目標は「中学生以下の年間観覧者数22,000人」ですが、令和4年度の中学生以下の年間観覧者数は1万6,841人でした。これは、令和3年度の1万4,325人に比べ17%の増加ではありますが、目標に対する達成率としては76.6%であるため、一次評価をCとしました。小学生美術鑑賞会が全学校で実施されたほか、感染症の影響による休館等もなく、また展覧会全体の観覧者数は高水準だったにもかかわらず、本項目の達成率が低かった理由としては、令和3年度に子ども向けまたは家族向けの企画展がほとんどなかったことが考えられます。特に、例年は家族層の来館が最も多くなる夏季が運慶展の開催時期と重なりましたが、運慶展の観覧者の年齢層が予想以上に高く、逆に中学生以下の観覧者が伸びませんでした。

一方、実施目標ですが、こちらは、19 ページにあるとおり、「学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する」から、「鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する」までの6項目です。令和4年度は、造形展と小学生美術鑑賞会を計画通りに実施したほか、子どもを対象とした対面型のワークショップを感染症対策をしながらですがようやく再開することができ、安定的に参加者を得ることができました。また、新たな取り組みとして、市内小学校、中学校の学校給食において谷内六郎作品にちなんだメニューを提供しました。以上の一連の成果を踏まえ、実施目標の一次評価はAといたしました。

④については、以上です。

[事務局・日野原]: 21 ページをご覧ください。「⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。」です。

「達成目標」につきましては、環境調査の実施年2回、美術品評価委員会の開催年1回です。こちらは両方とも開催できたことから一次評価を「A」としました。

続きまして「実施目標」につきましては、「収集方針に基づき、主体性を持って積極的に収集活動を行う。」から4項目ございます。こちらは、一次評価を「A」といたしました。理由としては、ふるさと納税によって美術品等取得基金に寄せられた寄付金での作品購入が継続できており、作品の保管・展示環境の維持、作品の修復、額装、貸出についても大き

な問題なく進められているためです。なお、第3期所蔵品展では、「つながるおもい—近年の寄贈作品から」と題して、開館15周年を機に、開館以降に寄贈された作品から主要な41点を展示しました。

⑤については、以上です。

[事務局・下田哲]：次に、24ページをご覧ください。「⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する」についてです。

こちらの一次評価は、「達成目標」、「実施目標」とともにAとさせていただきます。

まず、達成目標については、その下の[一次評価の理由]の欄の表でお示ししており、来館者アンケートの結果「館内アメニティ満足度94.7%」、「スタッフ対応の満足度90.8%」とどちらも目標の80%を超える高い評価をいただきました。以上から一次評価は「A」とさせていただきます。

25ページをご覧ください。実施目標「A」の評価理由については、中段以降に項目ごとに記載させていただいております。

ここに記載している各事業者とも日々緊密なやり取りをしながら、来館者が気持ちよく過ごしていただけるような運営を心がけています。

以上で、「⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する」部分の説明を終わります。

[事務局・冨田]：続いて27ページ「⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える」について、ご説明申し上げます。この項目の一次評価は、達成目標をA、実施目標をAといたしました。

まず、達成目標は「福祉関連事業への参加者数延べ60人以上」ですが、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策をした上で、年度後半から、対面のワークショップ、託児を再開したことにより目標値を達成したため、一次評価をAとしました。

続いて、28ページをご覧ください。⑦の実施目標は、「年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親んでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う」「必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する」「展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する」の三つです。

⑦に関わる事業は感染症の影響を強く受け、この3年ほどは活動を大きく制限してまいりました。しかし令和4年度は、感染症対策を行いながら、対面事業を再開することができました。再開にあたり新たな取り組みを積極的に取り入れましたのでご説明いたします。

障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」は、10月から対面型ワークショップを再開しました。新たな講師2名を加えて3名体制とし、匂いや触覚をテーマにしたプログ

ラムを実施しました。みんなのアトリエでは、五感をつかった活動をより充実させていきたいと考えていますので、その方向で新たな取り組みを開始しております。

つぎに、教材制作事業についてですが、これは従来の福祉講演会事業で得た視覚障害者の鑑賞活動に関する知見を、触ってわかる教材の開発という、より主体的な事業に発展させたものです。令和5年度は所蔵作品の立体レプリカを作成し、インクルーシブプログラムで活用を始めています。

また、福祉関連イベント2回のうちの1回として、市内の作業所や福祉施設を対象としたワークショップを開催しました。もう一つの福祉関連イベントとして、横須賀市点字図書館において調香ミニワークショップを実施しました。これは、令和5年度に実施予定としているインクルーシブプログラムのための試行という位置づけで開催したもので、視覚障害者であっても扱うことができる香料や道具を、実施を通して検証しました。

感染症対策のため中止していた事業を、新たな取り組みも試みながら、すべて再開できたため、この項目の一次評価をAとしました。⑦については、以上です。

[事務局・下田哲]：次に30ページをご覧ください。「⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する」についてです。

一次評価は達成目標、実施目標とも「A」とさせていただきます。

達成目標の評価の理由は、同ページ中段以降に記載させていただきました。

電気、水道で少し目標を上回ってしまいましたが、これらは多くの来館者がお越しいただいたことによることが理由と考えられます。事務用紙使用枚数については、システムによる業務の効率化が進んでいるため、印刷枚数が減ったことが理由です。

31ページをご覧ください。実施目標を「A」と評価した理由は、記載の通りです。

以上で、「⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する」部分の説明を終わります。

[小林委員長]：それでは、二次評価の議論に入る前に、今の事務局の説明に対する質問はありますか。

[全委員]：なし

[小林委員長]：ないようですので、二次評価の議論に進みます。

[小林委員長]：まず、目標①の「達成目標」ですが、どうですか。

[菊池委員]：目標年間観覧者数120,000人というのは平時の想定であり、コロナ禍で140,000人以上、目標の118.9%の集客をしたのは「S」評価に値する。

また、今回から市長部局になり、社会教育施設の基本を維持しつつ大衆興味をひきつけ

て、美術館の持つ特性を幅広く市内外に発信できていると思う。

[川口委員]：達成率 120%だったら「S」評価にしたが、118.9%なので「A」評価とした。何%だったら「すぐれた成果を挙げている」なのか悩んだ。

[柏木委員]：定量的項目は定量的評価基準を定めたほうがよいのではないかと。 「A」評価とはしたが、菊池委員の発言のとおり、コロナ禍においてすぐれた成果を挙げていると認められる。

[鈴木委員]：歴代3位という数字ときいて驚いた。特に運慶展とスカジャン展は、地元に着した展覧会でこれだけ集客をしたということは素晴らしいと思った。気持ちとしてはSに近い「A」評価とした。

[三浦委員]：企画がよかったと思う。すべて拝見して、運慶展、スカジャン展、その他の巡回展等についても内容がよかった。

[小林委員長]：ここまでの議論を踏まえまして、①の「達成目標」の評価は、「S」でいかがでしょうか。

[全委員]：賛成

[小林委員長]：次に、「実施目標」については、全員「S」と評価しておりますので、評価は「S」でよいかと存じますが、コメントをつけている委員にご意見いただきたいと思っております。

[菊池委員]：プロモーション活動や各所との連携が成果につながったのだと思う。達成目標と同じく「S」評価に値すると考える。

[柏木委員]：所管が変わったことをポジティブに捉えて様々な取り組みをされている。特に運慶展は展示で難しい部分もあったかと思うが、果敢に取り組まれていた。コロナ禍前の水準の来館者数は評価に値すると考える。

[川口委員]：テレビのドラマやコマーシャルの撮影が行われたことで、美術館の建物が全国に向けて発信され、美術館に行ってみたいと思ってもらえる一因になったのではないかと。

[小林委員長]：では、①の「実施目標」の評価は、「S」でよろしいですね。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：次に、②は「達成目標」も「実施目標」も、全員「F」と評価しておりますので、ともに評価は「F」となるかと存じますが、コメントをつけている委員にご意見いただきたいと思ひます。

[菊池委員]：この参加者数は、企画をして募るもので、コロナ禍の影響を受けやすい。数値的に評価するのが難しいので、達成目標、実施目標ともに「F」になると思ひ。

[柏木委員]：人と人が触れ合う活動は、コロナ禍を経て模索の時期にあると思ひるので、通常どおりの評価ができないのは仕方ないと思ひ。

[川口委員]：展覧会やワークショップなどのイベントにおいて、動画の制作に努めたことは評価されるべきだと思ひ。

[小林委員長]：では、②は「達成目標」の評価は「F」、「実施目標」評価も「F」でよろしいですね。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：次に、目標③ですが、まず「達成目標」にコメントをつけている委員にご意見いただきたいと思ひます。

[菊池委員]：評価は「A」で問題ないと思ひる。中身を見てみると、「解説・順路」の評価が展覧会ごとにはばらつきがあるため、分析が必要という感想を持った。

[柏木委員]：「解説・順路」に例年課題があると見受けられるが、全体として高い評価を得ており、「S」に近い「A」と評価した。定量的評価基準がなく評価を迷うため、定量的評価基準を定めたほうがよいのではないかと。

[川口委員]：目標 80%以上に対して 90%以上の結果なので、「S」と評価した。

[小林委員長]：では、③の「達成目標」の評価は、総合的には「A」でよろしいですか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：次に、「実施目標」については、いかがですか。

[菊池委員]：基本的には高い評価を示している。所管が変わって初年度の試行錯誤が良い意味で評価に出てきているのではないかと考える。そのあたりの良さを企画に活かしていただければ、さらに興味深いものになると期待する。

[柏木委員]：所管が変わったことを強みとしてプロモーション活動に力を入れたことが評価につながったと思う。「S」に近い「A」と考える。

[小林委員長]：では、③の「実施目標」の評価は、総合的には「A」でよろしいですか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：次に、④の「達成目標」ですが、いかがですか。

[菊池委員]：コロナ禍において十分健闘している結果だと思うが、定量的な評価をするのであれば「C」評価とせざると得ない。

[三浦委員]：中学生への訴求については、美術教師に招待券を配布して意識を高めてもらうなど、美術館の担当教諭をターゲットとした動きを強める必要があると思った。

小学生6年生は動員できると思うので、5年生以下について考える必要がある。夏休み前は動きやすい時期。保護者がいないと子供たちを連れて来られないので、保護者向けの動きを強めたほうがよい。

[鈴木委員]：幼児の観覧者数が令和元年度の12,636人から令和4年度の3,039人に減っていることから、小さい子を連れてきた保護者の数の影響が大きいのでは。年度ごとの企画展の内容によるところもあると思うが、子連れ割引を取り入れてみてもよいと思った。

[小林委員長]：では、④の「達成目標」の評価は、「C」でよろしいですね。

横須賀美術館の事務局は、今あがった案などぜひ検討してってください。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：次に、「実施目標」については、いかがですか。

[川口委員]：このような時期に鑑賞会が全小学校で実施されたことは評価に値すると思うが、個人ベースでの来館は今後の課題。例えば、先程の子連れ割引を取り入れるなどして目標を達成していければよいと思う。

[三浦委員]：小学校はまず保護者を動かす必要がある。中学校は、今は美術部顧問の引率による来館があると思うが、部活動における働き方改革が起きている中で、部活動以外で子供たちを動員できる仕組みを考えていかなければならない。教育委員会の指導主事とも一緒に、工夫しながら進めていかなければならないと考えている。

できることはやっけていて、この項目の評価は「A」でよいと思うが、まだ足りていない

部分はあると思う。

[菊池委員]：できる範囲の中での工夫が見られるので、「A」と判断した。

[柏木委員]：コロナ禍の影響がまだ残る中で、新しい取り組みにも着手されていてよい。

[小林委員長]：では、④の「実施目標」の評価は、「A」でよろしいですね。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：次に、目標⑤の「達成目標」ですが、柏木委員いかがですか。

[柏木委員]：多くの地方の美術館は購入予算が限られていて、購入を続けていくことが難しい状況。購入に着手し、そして今後も購入を続けていこうとしていることは、美術館の取り組みとしても姿勢としても、行政の考え方としても評価できることなので、堅持していただきたい。

[小林委員長]：では、他にご意見ないようでしたら、⑤の「達成目標」の評価は、「A」でよろしいですか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：次に、「実施目標」について、いかがですか。ないですか。

[小林委員長]：では、⑤の「実施目標」の評価は、「A」でよろしいですね。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：次に、目標⑥の「達成目標」ですが、いかがですか。

[菊池委員]：ばらつきなく、数年来高いレベルで満足度を維持できているので「A」と評価している。

[川口委員]：達成目標の数値をクリアしているので「A」と評価した。

[小林委員長]：では、⑥の「達成目標」の評価は、「A」でよろしいですね。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：次に、「実施目標」については、菊池委員からコメントをいただいています
が、いかがですか。

[菊池委員]：本市のシンボルとしての位置づけが維持されていると思う。全体のモチベー
ションが上がっていくためには、併設するレストランやミュージアムショップも潤ってい
くことが必要。ここに出ていない数字、例えば、レストランの売上などにも良い影響が出
ているのだと思う。

[小林委員長]：では、⑥の「実施目標」の評価は、「A」でよろしいですね。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：次に、目標⑦の「達成目標」については、菊池委員からコメントをいただ
いていますが、いかがですか。

[菊池委員]：イベントが復活してよかったと思う。また、オンライン活用などコロナ禍を
きっかけに取り入れることができた部分があり、定着してきているハイブリッドな運営は
今後プラスに影響すると考える。したがって「A」評価とした。

[小林委員長]：では、他にご意見ないようでしたら、⑦の「達成目標」の評価は、「A」で
よろしいですか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：次に、「実施目標」については、いかがですか。

[柏木委員]：コロナ禍での経験を踏まえて、コロナ後の新たな取り組みを試行していくと
いうことは評価に値する。

[川口委員]：最近手話の勉強をしている。「ポケット学芸員」を見て、手話動画があつて、
画期的だと思った。こういった取り組みが増えてほしい。

[小林委員長]：では、⑦の「実施目標」の評価は、「A」でよろしいですね。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：次に、目標⑧の「達成目標」ですが、菊池委員いかがですか。

[菊池委員]：この項目は電気料金の高騰などがこれからも不可抗力として影響してくるの

で、推移を注視しながら、来館者に不便をかけない節度のある節制を心がける必要がある。この項目は「S」という評価を目指す性質のものではないと考えるので、「A」評価をキープすることが大事。横須賀美術館は以前からそういった意識を持ちながら、お客様ファーストで運営に取り組んでいると思う。

[小林委員長]：では、他にご意見ないようでしたら、⑧の「達成目標」の評価は、「A」でよろしいですか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：次に、「実施目標」については、評価「A」でいかがですか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：最後になりますが、「令和4年度 横須賀美術館運営評価の方法について」です。まず、コメントをいただいている川口委員、いかがですか。

[川口委員]：市民委員として、専門家ではなく市民の意見として、気づいたことを述べてきましたが、市民委員の年齢や性別にもう少しばらつきが必要ではないかと考えます。

また、アンケートによる評価項目があるが、母集団を増やす工夫を今後もしていただきたい。

[小林委員長]：美術館の所管が教育委員会から市長部局に変わって2年経つ。美術館の在り方や活かし方について、当事者意識で変わっているところがあるのであれば、運営評価の評価項目について、追加や変更などを検討するのがよいのではないか。

[菊池委員]：評価項目の見直しに賛成。これらの項目は、美術館をどう良くしていくか、試行錯誤してきた中で長く用いてきている。環境の変化やコロナ後で発信方法の変化も考えられる中で、一度内容を変えろということも、美術館の今後の運営をより良く評価していくひとつだと考える。よい節目だと思う。

また、アンケートの母集団を増やすことは長年の課題で、毎年度挙がる。例えば、モニター制度という形で、年代別のモニタリングを行って意見を集約し、この委員会で参考意見として議論するといったことがあるとよいのではないか。

[倉林館長]：ご意見ありがとうございます。

まず、評価項目についてです。所管が教育委員会から市長部局に変わり、美術館を市のまちづくりにこれまで以上に活かしていこうという目標がありますが、美術館の在り方自体は変わらないので、評価の継続性という点もあり、これまでの評価もベースでは引き継いでいきます。一方で、社会や時代の変化に対応するという点で、新たな項目については

これから考えていかなければならないため、長期的な目で検討し、委員会に提案させていただきたいと思います。

次に、次の市民委員の2名について、結果的に両名とも女性で決定しています。男女比のバランスは引き続き意識していきます。

年齢層については、ご提案いただいたモニター制度を含め、市のアンケートの専門部署にも助言をもらいながら、改善に努めます。

[事務局・工藤]：アンケートについて2点補足いたします。

令和4年度は紙でのアンケートに加え、QRコードによるアンケートを導入し、オンラインでもご回答いただけるようになりました。

また、母集団を増やすことについて、10月から3月の平日、受付で観覧者に直接アンケートを手渡しするという試みを行っています。

[小林委員長]：それでは委員会の審議としては以上といたしまして、事務局にお返しします。

[事務局・下田哲]：本日議論いただいた二次評価内容は事務局でまとめ、評価報告書に加えまして、委員の皆様へ送付させていただきます。

委員の皆様には、最終のご確認をしていただき、修正等ございましたら事務局にご連絡いただき、その後は委員長一任として完成としたいと考えます。

[全委員]：異議なし

【3 その他 今後のスケジュールについて】

[小林委員長]：次に、3その他「今後のスケジュールについて」、事務局から説明をお願いします。

[事務局・下田哲]：それでは、資料3「運営評価委員会スケジュール」をご覧ください。

まず、本日第1回会議でご議論いただき、決定した二次評価をもとに、令和4年度評価報告書を作成し、委員の皆様へ送付させていただきますので、再度ご確認いただきますようお願いいたします。そして、委員の皆様からご承認をいただいた上で、評価報告書が確定します。確定した評価報告書は、後日当館のホームページで公開させていただきます。

次に、表の下段をご覧ください。第2回委員会では、10月11月を目途に令和5年度の事業計画に関する中間報告書を作成し、委員の皆様にご覧いただき、ご意見をいただくようにいたします。

また、来年3月に開催する第3回会議では、令和6年度事業計画の案をお示しするという流れで進めてまいります。

今後のスケジュールについては、以上となります。

[小林委員長]：今後のスケジュールについて、委員の皆様から何かありますでしょうか。

[全委員]：異議なし

[小林委員長]：それでは最後に、本日が任期中最後の会議となる市民委員2名から一言ずつお願いいたします。

[川口委員]：スカジャン展で会場スタッフがスカジャンを身に着けていたのが印象的だった。横須賀らしいユニフォームをいつも着ているというのもよいのでは。先日訪れた富山の美術館では、受付や展示監視のスタッフが皆素敵なドレスを着ていた。尋ねたところ、美術館にゆかりのあるイッセイミヤケさんのデザインとのことでした。ユニフォームから良い印象を持たれるというのもあると思う。

[鈴木委員]：美術館が好きで、多角的な視点から美術館を知り学ぶ機会になった。これからは一市民として、より横須賀美術館に積極的に関わっていかれたらと思う。

[小林委員長]：最後に、事務局から何かありますか。

[岡本課長]：長時間に渡り、ご審議いただき、ありがとうございました。

また、委員の皆様におかれましては、委員の任期が今年の9月末までの2年間となっておりますので、現任期では最後の委員会となります。

今まで本当にありがとうございました。今後とも横須賀美術館をよろしくお願いいたします。

【閉会】

自らの評価である一次評価のうち数値目標である「達成目標」については、数値基準を作成し、平成 30 年度一次評価より活用しています。

(平成 30 年度第 3 回会議資料)

評価基準 (平成 22 年度から)		数値基準 (実績値/目標値) (平成 30 年度から)
すぐれた成果を挙げている。	S	1.2 以上
目標を達成している。	A	1.0 以上～1.2 未満
目標をほぼ達成している。	B	0.9 以上～1.0 未満
目標にはほど遠い。 より一層の努力を要する。	C	0.7 以上～0.9 未満
努力が結果に結びついていない。 方法そのものについて再検討を要する。	D	0.7 未満
判定不能	F	—

※ひとつの評価項目に目標値が複数ある場合、各数値に上記基準を当て、総合的に判断します。

※計算上、最大値をもって S 評価 (1.2 以上) にならない場合は、最大値を S 評価とします。

運営評価委員による二次評価は、各委員の意見等により決定するものとしておりますが、今後は参考資料として、二次評価のお願いの際にご案内するようにいたします。